

Sponsor a Child

クリスチャンパートナーズ

通信第 89 号

-
- | | |
|---|----------------------------------|
| ・発行日 / 2013 年 05 月 15 日 | ・発行所 / クリスチャンパートナーズ |
| ・事務局 / 〒422-8053 静岡市駿河区西中原
2 - 7 - 63 - 1001 草野計雄方 | ・Tel / Fax 054-283-9317 |
| ・郵便振替口座 / 00150 - 0 - 134994 | ・e-mail / cnec-kk@mail.wbs.ne.jp |
| | ・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/ |
-

「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。」

ヨハネによる福音書 14 章 1 節

理事長 木ノ内一雄

人はどれ程幸せそうに見えても何か問題を抱えているのではないのでしょうか。明日のことは分かりませんし、過去にも問題はなかったと言える人はいないと思います。主イエスの時代から二千年の歳月が経ち、人々の生活は一変しました。しかし、私たちの心は当時と変わっていません。二年前、アフリカのガーナ・セネガル・ガンビアを訪問しましたが、人々は昔から続いてきたと思われる圧倒的な貧しさの中でも、たくましく生きていました。心の悩みや苦しみは貧富とは関わりなく、時代と共に変わることもないのです。

主イエスは弟子たちに「心を騒がせるな」と言われました。主イエスはもうすぐ十字架につけられることを御存知でした。それは御自身の死の苦しみに加え、全人類の罪を負って神の裁きを受けるといふ苦しみでした。それは私たちの罪が赦される唯一の道で、そのために主イエスは天の父のもとからこの世に遣わされたのです。一方、弟子たちは主イエスはメシアとして、ローマ帝国の支配からユダヤを解放し、神の国を建てられると信じていました。しかし、弟子たちの夢は砕かれ、命は危険にさらされ、深い挫折を味わうことになるのです。私たちもしばしば、神がおいでになるのなら、なぜこの世を神の国となされないのか、なぜこのような苦難や悲しみが自分の身に及ぶのかと不思議に思うのです。そのような時、全てが信じられなくなり、苦しみもがくのです。

主イエスはそのような弟子たちに「神を信じなさい」と言われました。神はこの世を創られました。創造とは無から有を生み出すことです。その神に、不可能なことはありません。主イエスの十字架は無力のように見えますが、そこに神の力が現われているのです。そして、神は十字架で死んだ主イエスを三日目に甦らせました。

主イエスは「わたしをも信じなさい」と言われました。死から復活された主イエスこそ「この世を歩かれた神」なのです。主イエスは今も生きておられ、信じる者に御自身の霊を与られます。私たちの心の苦しみ、悩みを癒してくださるのは神だけであって、主イエスの霊によって心を満たされる以外にはありません。私たちの苦しみ、悲しみは主イエスの十字架へと導くものです。それによって主イエスと共に永遠の命に生きるためなのです。過ぎ去りゆくこの世と、永遠の命とでは比較できません。多くの人が苦しみ、悩んでいるこの時、主イエスの言葉はわたしたちの心に喜びと平安をもたらします。

クリスチャンパートナーズと奨学金

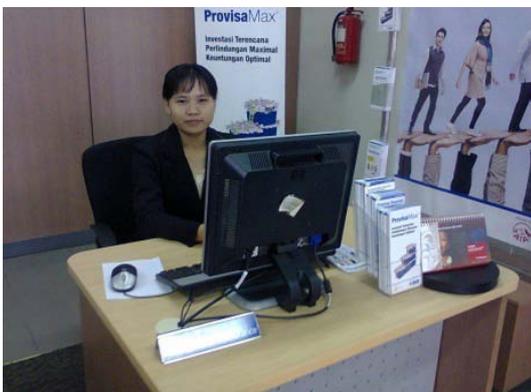
クリスチャンパートナーズは、インドネシアの西カリマンタンで経済的な事情から義務教育を十分に受けられない子どもたちを支援する SAC (Sponsor A Child) プログラム参加から活動を始めました。これはシンガポールに本部のある CNEC (Christian Nationals Evangelism Commission) を中心に、米国・カナダ・オーストラリアなどの同労団体と協力して実施しているプログラムです。今年度は 32 名の子どもが、毎月 1 名 4 千円を里親の皆様が支援して下さることで、基本的な学校教育を受けられるようになっていきます。教会学校に出席する子どもたちの中から、支援を必要としている子どもを牧師が推薦しますが、現在ほとんどの子どもがロバン村にある教会に属しています。ロバン村はシンカワンという港湾都市から内陸に入った村です。

* * * * *

アンテオケ宣教会の安海総主事のご紹介で、西カリマンタンのアンジュンガンにある神学校に派遣された高橋めぐみ宣教師とお親しくなって、神学生への奨学金から始め、一般大学生とキリスト教主義の中・高等学校の生徒、私立小学校の教師給与などに支援の対象が広がり、会員からお送りいただく支援金がますます必要になってきました。

「通信」を通して高橋宣教師から送られる奨学生の近況などを逐次お知らせしておりますが、今回は社会に巣立った元奨学生の様子をご紹介します。

アグスティナさんは、2007 年にポンティアナック市のタンジュンプラ大学経済学部に入学生としてザイトン女子寮で生活を始めました。（「通信」第 74 号 2 頁参照）成績が大変良く、在学中の 4 年間で得た点数が 3.54（最高 4 点）で、2011 年 11 月に 3 年 6 か月で卒業できたそうですが、その間毎月 1000 円（10 万ルピア）の援助を受けていました。卒業論文は、「起業に参加する事業家の経済訓練・能力・成功の分析について」というものだそうです。



現在、彼女はアジア中央銀行（Bank Central Asia）で働いています。以下が彼女からの手紙です。

「クリスチャンパートナーズの皆様に、感謝の言葉を申し上げます。今まで学費やお祈りのご支援をいただき、お陰様で無事大学生活を終え、よい成績を得て現在の仕事に就くことができました。ありがとうございました。今後ともお祈りのうちにお覚え下さい。」
（宮澤理事は 2008 年のカリマンタン訪問時に、女子寮でアグスティナさんとお会いしています。「通信」77 号 3 頁参照）

←銀行のデスクに座るアグスティナさん

「通信」第 88 号で卒業のお知らせをしたダミさんは、バライスパックの公立中学校で非常勤講師として働いています。

生徒たちに囲まれたダミさん

最近、卒業したタンジュンプラ大学の教授から、大学院に進まないかとの誘いがあったとのことで、将来、大学で教えるようになる可能性があり、ダミさんはもし入学が許されたら、夜アルバイトをしながらでも勉強を続けたいと希望しています。

高橋宣教師を通して、クリスチャンパートナーズに、再び支援していただけないだろうかとの打診の手紙が届きました。高橋先生の予測では、月 3000 円から 5000 円でも大きな支えになるのではないかとのことです。



ダミさんからの手紙をご紹介します（成績表も添付されてきました）。

《クリスチャンパートナーズの皆様

主イエスキリストのみ名を賛美します。皆様と手紙を通じて交流ができることを大変うれしく思っています。皆様のお助けで大学を卒業でき、今、中学校の教師として働いておりますが、主がスポンサーの皆様を私のために用意してくださった幸運を、日々感謝しています。

大学は卒業できましたが、私の本心はもっと勉強をしたい、上を目指したいと憧れておりました。大学院に入って、母校に奉仕するのが夢でした。タンジュンプラ大学のインドネシア文学部には、クリスチャンの教授も信仰を持つ学生も少ないです。学生時代に指導してくださった教授方から、大学院に入って将来母校で働かないかとのお誘いをいただきました。

現在私は地方で働いており、母親も亡くなり、学費が最大の難関です。それで、もしできましたら、皆様にまた助けをいただけないものかと思い、高橋先生にご相談しました。入学申し込みは5～6月に行われ、願書に50万ルピア、入学費用は前期600万ルピア、後期550万ルピアです。大学院は2年間で、入学できたら、もちろん働きながら学びます。

厚かましいお願いですが、お聞き届けいただけませんかでしょうか。

主がいつも皆様を守り支えてくださることを祈っております。

2013年4月10日 於リタンフル

ダミ・ウイスダ 》

ブンカヤン・ベラカ寮

この写真はブンカヤン・ベラカ寮で、高校生の寮生が勉強している様子です。彼らの親は奥地に住んでいて、中学・高校から遠く、勉学を続けるには親戚・知人の家に寄宿しなければなりません。

進学を希望する生徒に好ましい生活環境を与えるため、アンテオケ宣教会は多くの学生寮を建設・運営しており、高橋宣教師はその監督責任を負っていらっしゃいます。寮監には神学校の卒業生などが任命され、キリスト教教育が行われています。この寮から通学している高校生のうち9名に、1人あたり月500円の奨学金を、クリスチャンパートナーズがお送りしています。寮監のジュマディ師から、礼状が届きました。



《日本にいらっしゃいますクリスチャンパートナーズの皆様

主のみ名を賛美します。ブンカヤン・ベラカ寮の者たちがご挨拶をさせていただきます。寮生のために温かい心遣いと援助をしてくださいまして、心から感謝の言葉を申し上げます。

現在、寮には23人の子どもたちが住んでいます。その中の9人はクリスチャンパートナーズからの学費の援助をいただいている者です（1人6万ルピア）この支援金は彼らにとりまして大きな力になります。彼らの多くは奥地の出身で、親からの送金はほとんどありません。どうか、子どもたちのために祈ってください。

祈りの主題：主イエスキリストと個人的に対話できますように。

勉強をやる気と頑張る力が出て、よい成績が取れますように。

神様への道に、明るい未来を持てますように。

皆様の上に、神様のお恵みがいつもありますように。

2013年3月25日 ジュマディ・アジュン 》

ブンカヤン・ベラカ寮のクリスマス。



寮生全員が玄関に集まりました



☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

クリスチャン パートナーズでは、このほか、インマヌエル中学校の生徒 10 名に月 500 円、同校高校生 3 名に月 750 円、大学生 2 名に月 1000 円、神学生 3 名に月 5,500 円、キリスト教主義私立小学校の教師報酬補助として 1 名分月 3,500 円など、年額 40 万円以上を高橋宣教師を通して支援しています。(2011～2012 年度の決算・予算書をご参照ください)

お祈りにお覚え下さり、ますますのご支援をお願いいたします。

【理事会報告】第 176 理事会は 2013 年 01 月 21 日（月）一ツ橋学士会館で開催。前回議事録一部修正の上承認。2012 年 11・12 月度会計報告承認。2013 年 1 月 19 日現在の SAC 里子 41 名の名簿配布。マレーシア事務所から里子 8 名がプログラムから離れたと通知があったので、今後の SAC プログラムの扱いについて協議。里親には新しい里子を紹介せず、今後は支援金を奨学金の項目へ移していただくようお願いする。「通信」第 88 号は 2012 年 12 月 10 日に発送。ガーナからの領収書未着。当会顧問のアンテオケ宣教会総主事安海靖郎氏退任にあたり感謝の意を表す。

第 177 回理事会は 2013 年 03 月 18 日（月）一ツ橋学士会館で開催。前回議事録承認。2013 年 01・02 月度会計報告承認。竹澤理事より 2012 年 7 月から 2013 年 2 月までの会計状況報告が提示され、支援金収入の減少から支出の緊縮を考慮すべき状態になっている現状が明らかにされた。現在 SAC 里子は 32 名で、3 月初め手紙が到着し、稲葉夫人の翻訳ができ次第、里親に送る。「通信」第 89 号は、高橋宣教師からの奨学生関連の記事を待って作成する。ロバン村の教会幼稚園園舎奉献式には出席せず、祝い金を贈る。今年度の CEO 会議に、理事長は出席しない。

第 178 回理事会は 2013 年 06 月 10 日（月）一ツ橋学士会館で開催予定。

（編集後記）お忙しい高橋宣教師に代わって、稲葉シリ レスタリさんが時をおかずインドネシア語を翻訳してくださるので、皆様に情報がすぐ届くようになり、大変感謝しております。隠れたご奉仕を皆様もお覚え下さい。

青葉の季節、ご支援くださる方々とご家族の健康を祈ります。

鳥海百合子